

## 抑制かぼちゃ（直播き子づる2本仕立て）

【品種】 くり将軍（トキタ）、えびす（タキイ）

凡例：○播種、△補植、★受粉、□収穫

目標収量：800kg/10a

月・旬 作型	7			8			9			10			11		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
抑制 (直播栽培)				○—○ (△)				★	★						□
作業内容			播種	摘心	整枝 (病害虫防除)	追肥 (病害虫防除) ①	人工受粉 (病害虫防除)	追肥 ②	台座敷き (病害虫防除)	日焼果対策 (病害虫防除)					収穫

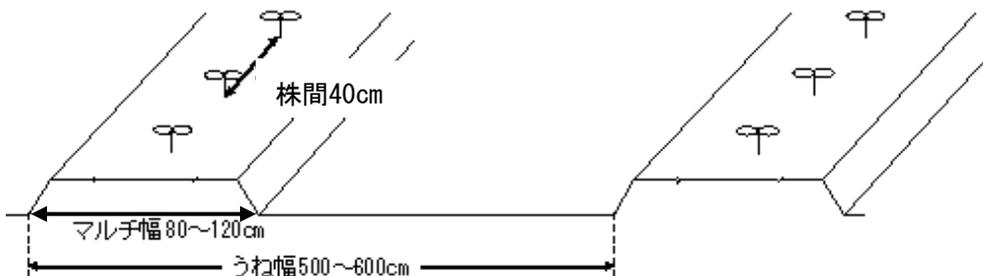
### 栽培のポイント

1. 播種期および着果期が限られるため、適期作業を心がける。
2. 生育初期より病害虫が多発するため、防除をしっかりと行う。
3. 秋雨や台風の大雨により、畑が浸水や冠水する場合があるので、排水対策を行う。
4. 着果期が台風シーズンと重なるため、ほ場周囲にソルゴーを植栽する等防風対策を行う。

### 栽培の手引き

#### 1. ほ場準備

- (1) 播種の7日前までに施肥し、土が湿った状態でシルバーマルチを被覆する。  
※土とマルチの間にできるだけ隙間が生じないように被覆する。
- (2) 大雨で冠水しない程度のうね高とする（極端な高うねは地温が高くなりやすい）。
- (3) 転作田で栽培する場合は、ほ場周囲とうね間に溝切りし排水対策を徹底する。



うね幅：500～600cm、株間：40cm、株数：420～500株/10a

資材：シルバーマルチ（厚さ0.02mm×幅135cm）

## 〔抑制かぼちゃー2〕

### 2. 播 種（7月下旬～8月初旬） ※補植用ポット苗を1割程度用意しておく。

#### （1）催芽処理

- ① 播種前日、朝10時頃から夕方4～6時頃まで（6～8時間）種子を水に浸け、十分に吸水させる。
- ② 吸水後、ざるなどで種子の水気を切り乾燥しないように濡れタオルで覆い、容器に入れて室内で保管する。
- ③ 20～24時間後（翌日の午後4～6時頃）、種子先端が割れ始めた状態で播種する。  
※発根し始めると根の伸びが早いので、その日の内に播種できる量を計画的に処理する。

#### （2）播種前のほ場準備

- ① 地温の上昇を抑えるためシルバーマルチを使用する。  
※35℃以上に地温が上昇すると発芽が極度に悪くなる。
- ② マルチカッターなどを用いて直径8～10cmの穴をあける（マルチのみ切除）。  
※穴が小さいと、発芽後、子葉がマルチに引っ掛かりやすい。
- ③ マルチ穴にあらかじめ充分かん水し、マルチ下の土壤に水分を含ませる。
- ④ かん水後、500ml ペットボトルのキャップ側を肩部分まで土壤に挿し込み、浅めに播種穴をあける。



②マルチ穴あけ



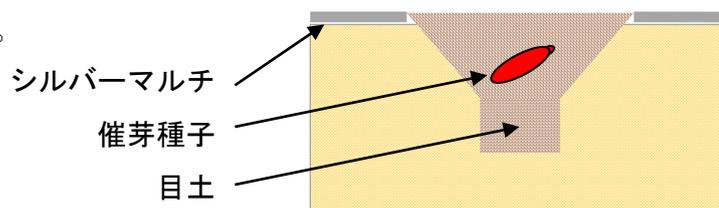
③かん水



④播種穴あけ

#### （3）播 種

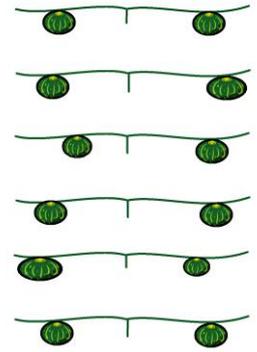
- ① 市販の育苗培土などの目土を用意する。  
※ほ場の土（特に、赤土など粘質土壤）を目土に使用すると、降雨後、土膜が形成され（土がレンガ状に固まる）、発芽不良の原因となるため注意。  
※培土が乾いている場合は、事前に水を加え良く混ぜて軽く湿らせておく（培土10kgに対して水0.5～1kg）。
- ② 播種穴を目土（約300cc/穴）で塞ぎ、そこに種子を埋め込むように播種する（深さ2～3cm）。※発芽口を上やや斜めに埋め込むと皮かむり防止となる。
- ③ 播種後、乾燥防止のためモミ殻などを敷く。  
※目土が湿れば、かん水不要。



直播のイメージ図

### 3. 摘心・整枝

- (1) 本葉3～4枚頃(播種後約2週間)、親づるを摘心する。
- (2) 生育が揃った**子づる2本**を残し、その他のつるは取り除く。
- (3) 子づるが敷きわらなどに固定される前は風に非常に弱いので、「ヘアピン杭」などを利用して風に揺さぶられないよう株元を固定する。
- (4) 葉が重ならないように子づるを配置し、草勢が強い場合は、着果節付近までわき芽を取り除く。
- (5) 管理通路を確保するため、子づるが通路まで伸びたらつる先を株元へ折り返す。



### 4. 追肥(1回目)・中耕

- (1) 子づるが30～40cmに伸びた頃、1回目の追肥をマルチの際から両側1m幅に施用し浅く中耕する。※根を切らないように注意!
- (2) 追肥部分に敷きわらをする。敷きわらが無い場合はバインダーひもなどを張り、子づるがからまり、固定できるようにする。
- (3) うね間に溝を切り、排水対策により湿害や疫病を防ぐ。

### 5. 受粉

- (1) 着果節位は15～20節付近を目標とするが、降霜前に収穫する必要があるため、9月20日までに開花する雌花に着果させる。
- (2) 訪花昆虫が少ない場合は、遅くとも朝9時まで人工受粉を行う。  
(朝9時以降は花粉の活力が低下する)

### 6. 追肥(2回目)

抑制かぼちゃは着果適期が短いため、2回目の追肥(玉肥)を雌花開花期につる先から通路付近にかけて施用する。

### 7. 台座敷き

果実がソフトボール大になった頃、果実全体の着色を促進するため、台座を敷く。果実の傷を防ぐため、果実の上に乗ったつるは下ろす。

### 8. 果実日除け

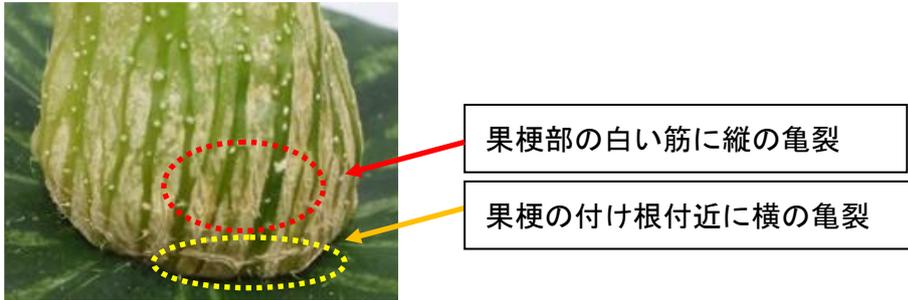
果実肥大がほぼ完了する開花後30日頃より、白色クラフトテープを貼り付けるなどの方法で変色(茶褐色)を防ぐ。

## 〔抑制かぼちゃー4〕

### 9. 収 穫

(1) 開花後50日前後に試し切りを行い、完熟果の収穫に努める。

(外観の目安：果梗部に発生するコルク状の白い筋に縦の亀裂が入り、更に果梗の付け根付近に横の亀裂が入った頃)



(2) 着果位置（着果節）で開花期（熟度）が異なる。遅れて着果した未熟な果実の混入に注意する。

(3) 果梗（つくし）は果実の肩より低くなるように切る。

### 10. 風乾（収穫後、屋内で約2週間）

(1) 果実の積み上げは3段までとし、果梗切り口の上に果実が触れないようにする。

風乾中は、扇風機を稼働させ、屋内で空気の流れを作り乾燥を促進させる。

(2) 風乾中に発生する腐敗果は迅速に取り除き、伝染を防ぐ。

(3) 風乾により、果梗の切り口が十分に乾いてから箱詰めし、出荷する。

## ＜ 施肥基準 ＞

## 1. 能登かぼちゃ2号施用体系 (kg/10a)

施肥体系	肥料名	総施 用量	基肥	追 肥		備 考
				第1回	第2回	
能登かぼ ちゃ2号 体系	堆肥	2,000	2,000			全面施用
	苦土石灰	100	100			〃
	熔燐	20	20			〃
	能登かぼちゃ2号	70	50	20		基肥:マルチ位置
	NK17号	20			20	
成分量	チツソ	15.3	8.5	3.4	3.4	
	リンサン	6.1	5.5	0.6	0	
	カリ	8.3	3.5	1.4	3.4	

## 2. 硝加燐安333号施用体系 (kg/10a)

施肥体系	肥料名	総施 用量	基肥	追 肥		備 考
				第1回	第2回	
硝加燐安 333号 体系	堆肥	2,000	2,000			全面施用
	苦土石灰	100	100			〃
	熔燐	20	20			〃
	硝加燐安333号	90	60	30		基肥:マルチ位置
	NK17号	20			20	
成分量	チツソ	15.1	7.8	3.9	3.4	
	リンサン	15.7	11.8	3.9	0	
	カリ	15.1	7.8	3.9	3.4	

注1) 堆肥、苦土石灰、熔燐は、ほ場全面施用とし、熟畑では熔燐を減肥する。

注2) 基肥の能登かぼちゃ2号または硝加燐安333号はマルチ位置に施用する。

注3) 追肥：第1回は子づるが30～40cmに伸びたら、マルチ両側に施用し中耕する。

第2回は雌花開花期につる先から通路付近にかけて施用する。

★ 病害虫防除指針

※記載のない病害虫や薬剤については、事前にJ A・農林事務所に相談すること。

(令和5年6月20日現在)

対象病害虫	薬 剤 名 (*銅を含む薬剤)	成分 数	安全使用基準			備 考
			希 積 倍 率 等	収 穫 前 日 数	使用回数 (以内)	
斑点・褐斑細菌病、べと病、軟腐細菌病	* Z ボ ル ド ー	—	500倍	—	—	100～300ℓ/10a 注1、注2) 予防剤
疫病、べと病	ランマンフロアブル	1	2,000倍	前日	3回	150～300ℓ/10a
疫病、べと病、炭疽病、つる枯病	ジマンダイセン水和剤	1	600倍	21日	2回	100～300ℓ/10a 予防剤
うどんこ病	トリフミン水和剤	1	3,000～ 5,000倍	前日	5回	100～300ℓ/10a 治療剤
	* ジーファイン水和剤	—	750～1,000倍	前日	—	150～500ℓ/10a 注1、注2) 治療剤
	イオウフロアブル	—	500倍	発病前～ 発病初期	—	注3) 予防剤
	硫 黄 粉 剤 5 0	—	3 kg/10a	—		注1、注3) 予防剤
	シヨウチノスケフロアブル	2	2,000倍	前日	2回	100～300ℓ/10a 注4) 予防、発生 初期治療剤
	シグナムWDG	2	1,500～ 2,000倍	前日	3回	100～300ℓ/10a 注5) 予防、治療剤
うどんこ病 つる枯病	ポリベリン水和剤	2	1,000～ 2,000倍	7日	3回 注6)	数年以内に登録 失効予定 100～300ℓ/10a 注6) 治療剤
うどんこ病 白斑病、疫病	*ベフドー水和剤	1	500倍	7日	4回 注6)	数年以内に登録 失効予定 100～300ℓ/10a 注2、注6) 予防剤
うどんこ病、 白斑病、べと病	ダコニール1000	1	1,000倍	7日	3回	100～300ℓ/10a 予防剤
白 斑 病	トップジンM水和剤	1	1,000倍	前日	5回	100～300ℓ/10a 治療剤

〔抑制かぼちゃー7〕

対象病害虫	薬剤名 (*銅を含む薬剤)	成分数	安全使用基準			備考
			希釈倍率等	収穫前日数	使用回数(以内)	
コガネムシ類 幼虫	ダイアジノン粒剤5	1	4～6kg/10a	21日	4回 注7)	作付前：全面土壌混和 又は作条土壌混和 生育中：作条処理後、 軽く覆土(3回以内)
コナジラミ類 アザミウマ類	アドマイヤー1粒剤	1	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類	スタークル粒剤	1	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和
ネキリムシ類	ガードベイトA	1	3kg/10a	生育初期	5回 注8)	株元散布 注8)
アブラムシ類	アディオン乳剤	1	2,000～ 3,000倍	前日	5回 注8)	100～3000/10a 注8)、注9)ミツバチ影 響有
	スタークル顆粒水溶剤	1	2,000倍	前日	2回	100～3000/10a 注9)ミツバチ影響有
アブラムシ類 ウリハムシ	モスピラン顆粒水溶剤	1	2,000～ 4,000倍	前日	2回	100～3000/10a
カボチャミバエ			2,000倍			
アブラムシ類 ハダニ類	マラソン乳剤	1	2,000～ 3,000倍	前日	5回	100～3000/10a 注9)ミツバチ影響有
ウリハムシ			1,000倍			
ハダニ類	ニッソラン水和剤	1	2,000倍	前日	2回	100～3000/10a 連続散布しない

注1) Zボルドー、ジーファイン水和剤、硫黄粉剤50は「野菜類」で登録あり

注2) 銅を含む薬剤(Zボルドー、ジーファイン水和剤、ベフドー水和剤等)は高温多湿条件(26℃以上、長時間の濡れ)で薬害を生じやすいので、高温時や降雨前後、日没前は散布を避ける。クレフノン(100～200倍)の混用は薬害軽減に有効だが、収穫間際の使用は果実に汚れを起すので留意する。

注3) イオウフロアブル、硫黄粉剤50は葉たばこの隣接圃場では使用しない。また、散布後の果実に硫黄臭が残ることがあるため着果期までの使用とする。

注4) フルチアニル(ショウチノスケフロアブル)を含む農薬の総使用回数は2回以内、メパニピリム(ショウチノスケフロアブル、フルピカフロアブル)を含む農薬の総使用回数は4回以内。

注5) 薬害防止のため、シグナムWDGと浸透性を高める展着剤(アプローチBI、ニーズなど)は混用しない。

注6) 「ポリベリン水和剤」と「ベフドー水和剤」は同じ成分を含むため、使用回数は合計4回

〔抑制かぼちゃー8〕

以内とし、そのうちポリベリン水和剤の使用は3回以内とする。また、連用を避ける。

注7) ダイアジノン粒剤5の生育期の処理は3回以内とする。

注8) 「ガードベイトA」と「アディオオン乳剤」は同じ成分を含むため、使用回数は合計5回以内とする。また、連用を避ける。

注9) スタークル顆粒水溶剤、アディオオン乳剤、マラソン乳剤は開花期を避け散布する（散布後10～20日程ミツバチに影響がある場合あり）。

- ※ 散布量は生育ステージや繁茂の状況によって調整し、葉裏にも満遍なくかかるよう散布する。
- ※ 農薬類を使用する際は、周辺作物へ飛散しないように注意する。
- ※ うどんこ病、ウリハムシを重点的に防除し、ウリハムシは成虫の活動がにぶる夕方に薬剤が虫にかかるように防除する。

(令和5年6月20日現在)

対象雑草	薬 剤 名	成 分 数	10a あたりの使用量		収 穫 前 日 数	使用回数 (以内)	備 考
			薬 量	希 釈 水 量			
一 年 生 雑 草	ラウンドアップ マックスロード	1	200～ 500ml	50～ 100L	耕起前 (雑草生育期)	1 回	雑草茎葉散布
一 年 生 雑 草	バスタ液剤	1	300～ 500ml	100～ 150L	30日 (定植前又は 畦間処理)	2 回	雑草茎葉散布 作物にかからな いよう散布

- ※ クレマート乳剤及びトレファノサイド粒剤2.5は直播栽培では使用できないので注意する。
- ※ 農薬類を使用する際は、周辺作物へ飛散しないように注意する。

※ 農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し使用基準を守って使用すること。  
 ※ 散布後はタンクやノズル、ホース内に農薬が残らないよう、しっかり洗浄すること。  
 ※ 防除は、他の作物へ農薬が飛散しないよう注意して行うこと。